

令和4年度 全学共通科目に関する調査（学生対象）

調査概要 全学共通科目のうち「社会人基礎力入門」、「初年次ゼミⅠ」、「初年次ゼミ」、「自己と社会・地域論」、「初年次ゼミⅡ」の5科目について、学生を対象としたアンケート調査を実施した。調査では、授業内容に関する5項目について5段階の自己評価で理解度を測るとともに、講義前後の変化について2択で測った。また、学生自身がより修得したい、もしくは修得する必要があると思う内容について自由記述を求めた。調査にはマナバコースのアンケート機能を用いた。

調査時期 前期調査：2022年7月（15回目授業）
後期調査：2023年1月（15回目授業）

調査対象 大学1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミⅠ」「自己と社会・地域論」「初年次ゼミⅡ」
短期大学部1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ」「自己と社会・地域論」
※ 留学生は「社会人基礎力入門」「自己と社会・地域論」を2年次に受講するため、対象は短期大学部2年生となる。

調査内容 科目ごとにシラバスの到達目標をまとめた5項目の設問について、「全くできていない」、「あまりできていない」、「どちらともいえない」、「ある程度できている」、「よくできている」の5段階で回答を求めた。また教育前後の変化を把握するため、前述の理解度について「講義前から変わらない」、「講義前より力がついた」のどちらかで選択回答を求めた。

社会人基礎力入門

1. 社会人に必要な基礎学力である「読む・書く・聞く」力の重要性を理解している
2. 正しい敬語を使うことができる
3. 社会人マナーについて理解している
4. 社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の重要性を理解している
5. 情報社会に必要なリテラシーを身につけている

初年次ゼミⅠ

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 収集した情報をルールにのっとり引用することができる
4. 根拠に基づき自分の考えを主張することができる
5. 基本的な構成に沿って、体裁を整えたレポートを書くことができる

初年次ゼミ

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 基本的な構成に沿ったレポートを書くことができる
4. プレゼンテーションのための資料(スライド, ハンドアウトなど)を作成できる
5. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる

自己と社会・地域論

1. 自己理解、他者理解を深め、円滑な人間関係を築くことができる
2. ストレス・コントロールの方法を理解し、実践できる
3. 徳島県の地場産業や企業の特徴を説明することができる
4. 地域貢献活動の目的や必要性について、自分の考えを述べることができる
5. 積極的に意思を表明し、グループワークに貢献できる

初年次ゼミ II

1. 自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる
2. プレゼンテーションのための効果的な資料(スライド, ハンドアウトなど)を作成できる
3. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる
4. グループの中で共通理解が得られるようにディスカッションすることができる
5. ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる

調査結果

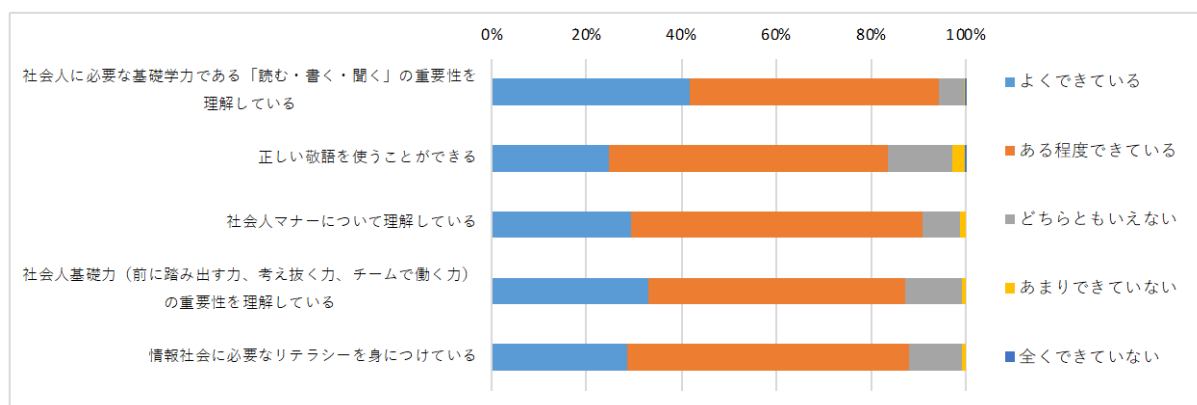
各科目のアンケート回答者数、自由記述回答者数は下記の通りであった。

科目名	回答者数（大学）	回答者数（短期大学部）	回答者数（全体）	回答者数（自由記述）
社会人基礎力入門	429	97	526	302
初年次ゼミ I	434	－	434	245
初年次ゼミ	－	105	105	45
自己と社会・地域論	400	25	425	169
初年次ゼミ II	421	－	421	193

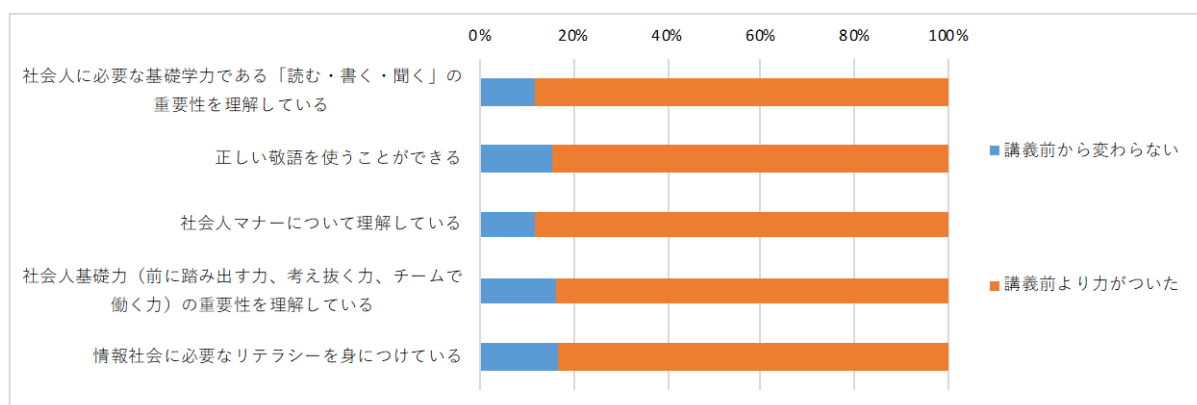
結果の概要

【社会人基礎力入門】

5 項目全てで「よくできている」「ある程度できている」の肯定的回答が 8 割を占めていた。特に、社会人に必要な基礎学力「読む・書く・聞く」の重要性と社会人マナーについては 9 割以上の学生が肯定的に回答した。否定的回答は、5 項目全てにおいて全体の 3%未満であり、概ね学修内容を理解・修得していると考えられた。またすべての項目で 8 割以上が「講義前より力がついた」と回答した。



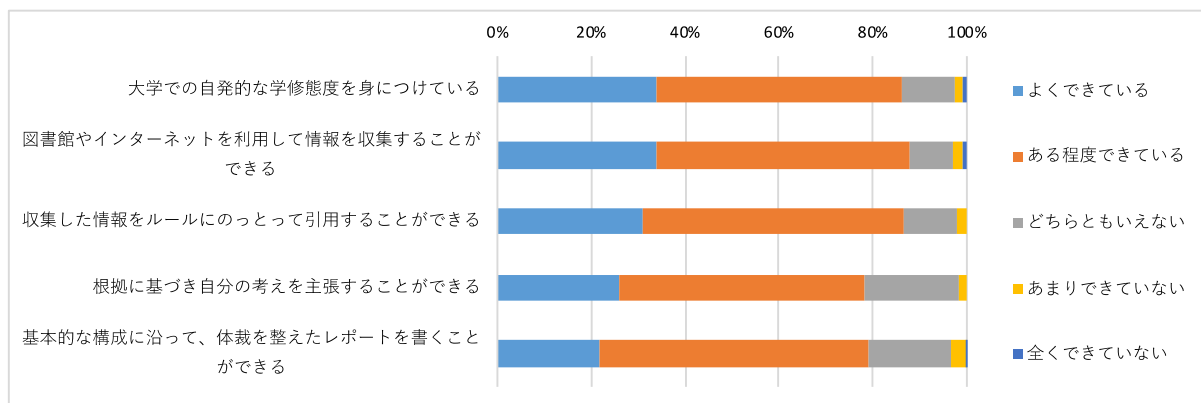
図．社会人基礎力入門の学修内容の理解度



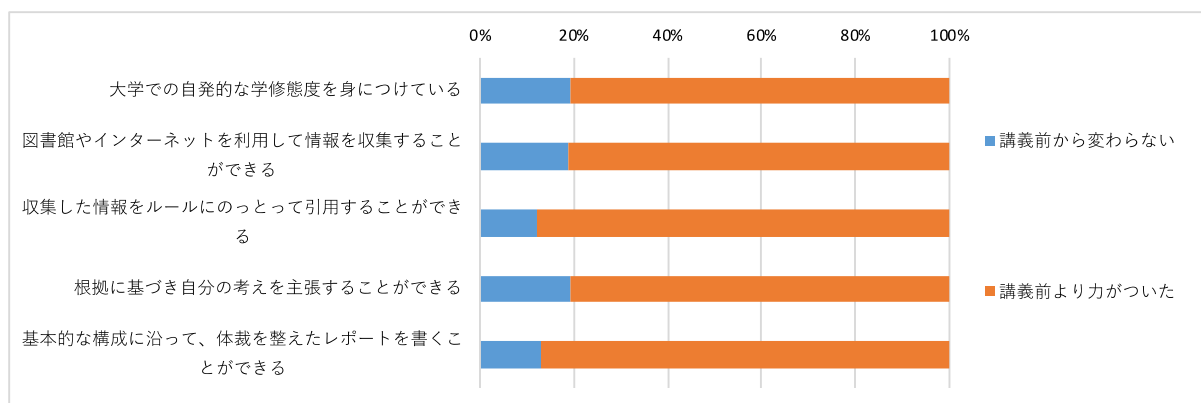
図．社会人基礎力入門の講義前後の変化

【初年次ゼミ I】

5 項目の設問のうち〈根拠に基づき自分の考えを主張することができる〉と〈基本的な構成に沿って、体裁を整えたレポートを書くことができる〉については「どちらともいえない」もしくは否定的な回答が約 20%を占めていた。初年次ゼミ I はレポートの書き方の基本を初めて学ぶ授業として位置づけられ、ここから実践を重ねることによって理解度がさらに高まるものと期待される。



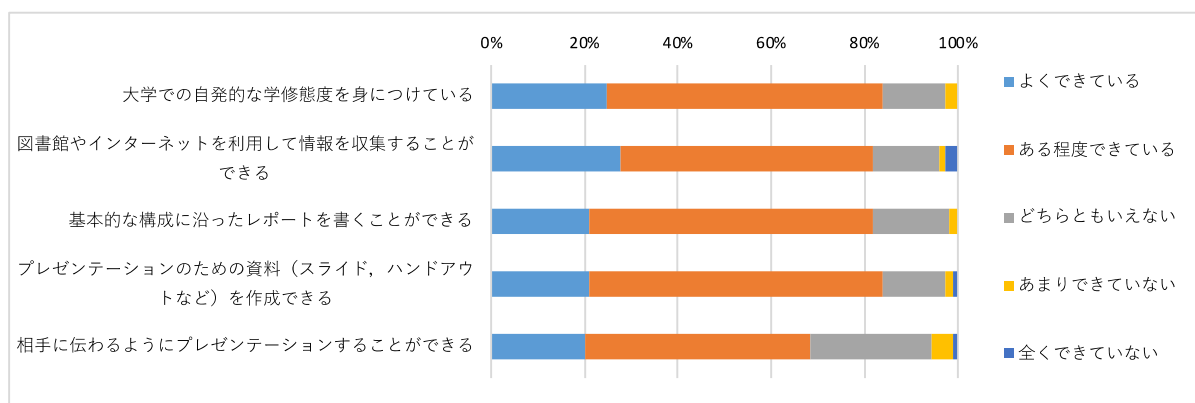
図．初年次ゼミ I の学修内容の理解度



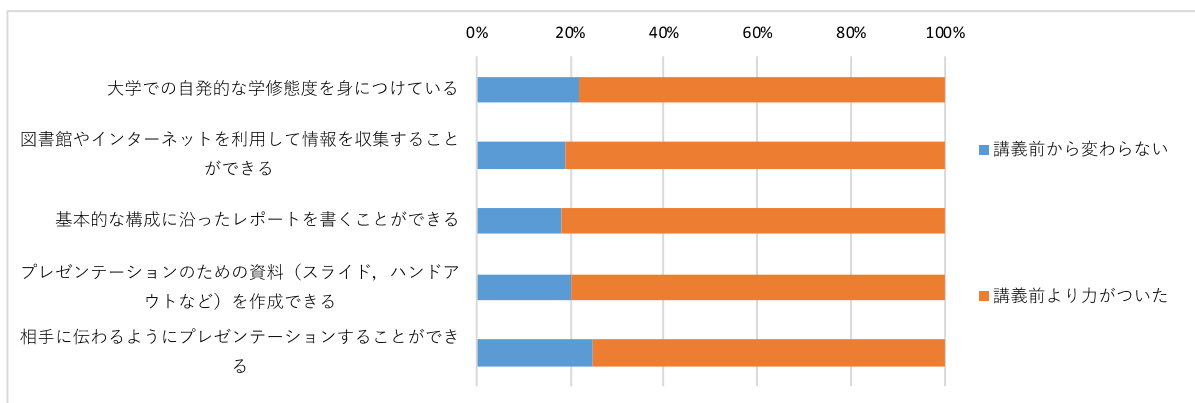
図．初年次ゼミ I の講義前後の変化

【初年次ゼミ】

5 項目の設問のうち〈相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる〉では否定的回答と「どちらともいえない」が全体の 32%を占めており、苦手を感じる学生が多いことが伺えた。大学での自発的な学習態度とプレゼンテーションに関する 3 項目は他の 2 項目よりも自身の力が「講義前から変わらない」と回答した学生が多かった。短期大学部には留学生を含むバックグラウンドの異なる学生が在籍しており、学力の差が大きく、難易度の設定が課題である。



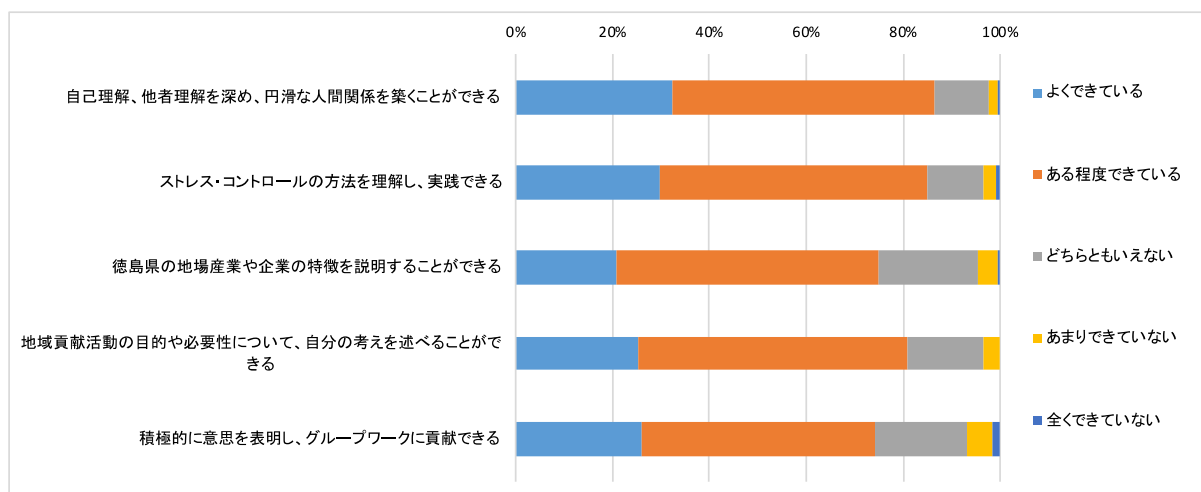
図．初年次ゼミの学修内容の理解度



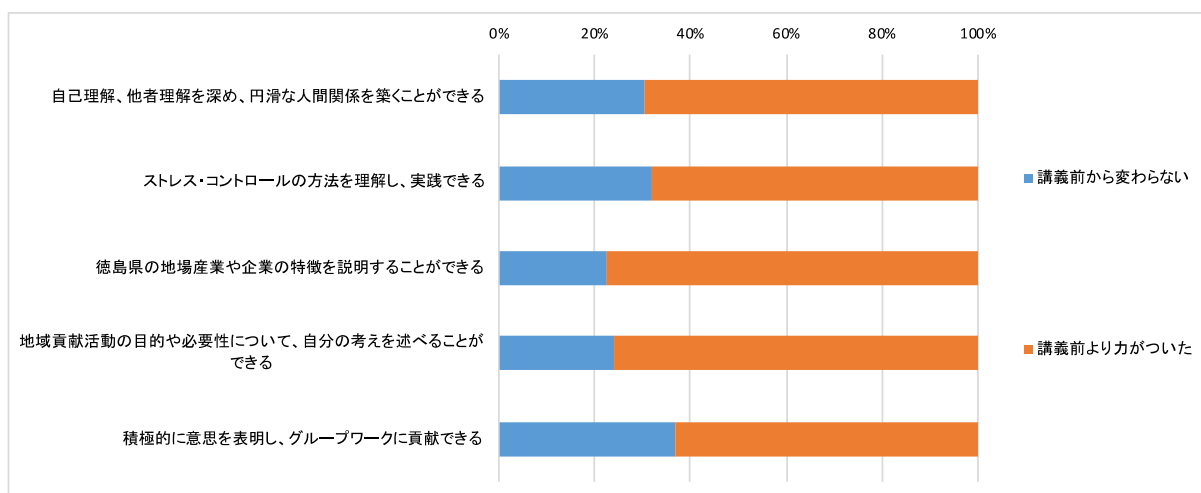
図．初年次ゼミの講義前後の変化

【自己と社会・地域論】

前半の「自己論」では8割以上、後半の「社会・地域論」では7割以上で肯定的な回答が得られた。ただし講義前後の変化については他の授業に比べて「講義前から変わらない」の割合が高かった。ワークを多く取り入れる授業内容であるものの、さらに修得の実感を高める工夫が必要である。



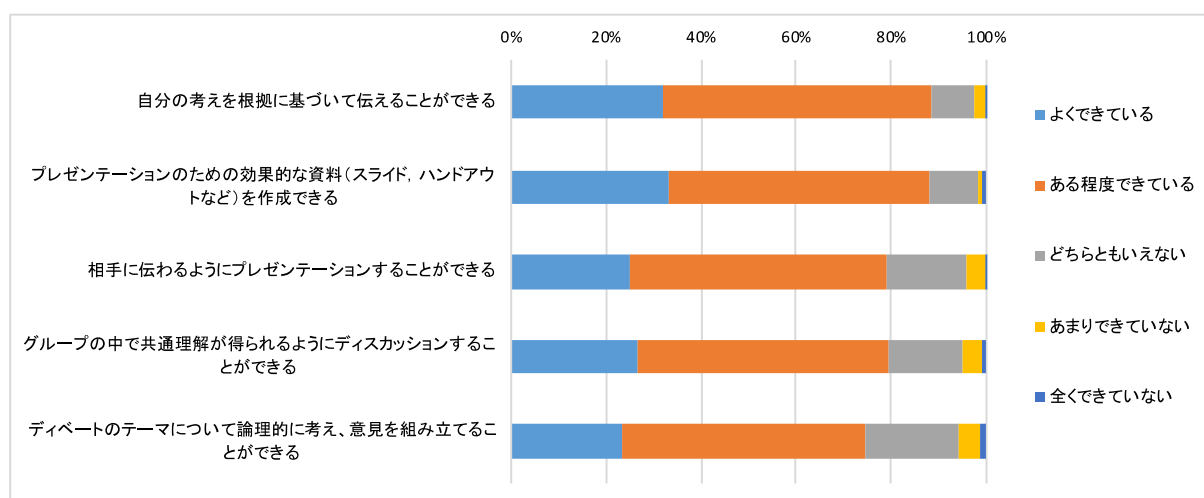
図．自己と社会・地域論の学修内容の理解度



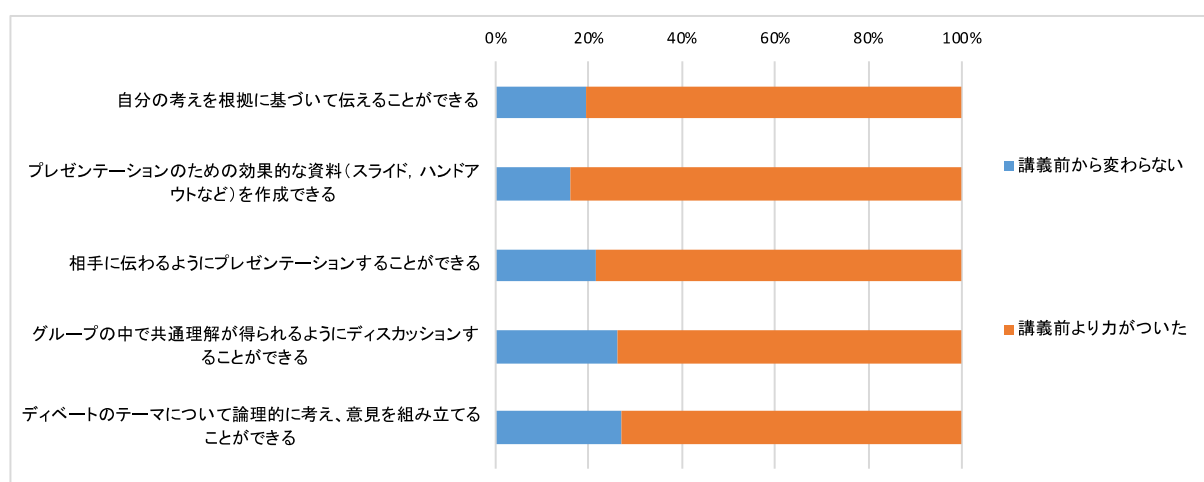
図．自己と社会・地域論の講義前後の変化

【初年次ゼミ II】

〈自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる〉と〈プレゼンテーションの為の効果的な資料（スライド、ハンドアウトなど）を作成できる〉では、ともに9割近い学生が肯定的に回答した。一方でプレゼンテーション、ディスカッション、ディベートの実践に関する項目では、自己評価の難しさからか「どちらともいえない」の回答が一定数見られた。初年次ゼミ I と同様、プレゼンテーションやディスカッションを身に付ける最初の授業であるため、十分に修得できていると実感した学生は少なかったと考えられる。



図．初年次ゼミ II の学修内容の理解度



図．初年次ゼミ II の講義前後の変化